

がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	レジメン名
	全身性ALアミロイドーシス	DCyBorD(皮下)
投与予定	休薬を含めて 1クール 28日 24クール施行	

Rp	薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	手技・用法	投与時間	投与日(day -)			
							1	8	15	22
1	ダラツムマブ ・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ	ダラツムマブとして 1800 mg/body ボルヒアルロニダーゼ アルファとして 30,000単位/body 1回 15ml /body		mg/body 実際の 投与量 単位/body 実際の 投与量 ml/body	皮下注					ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファは 3クール目以降はDay1、15のみ投与 7クール目以降はDay1 ↓ ↓ ↓ ↓
2	ボルテゾミブ 生食 (1vを生食1.2mlで 溶解)	1.3 mg/m ²	#REF! mg/body	mg/body 実際の 投与量 ml	皮下注					ボルテゾミブは7クール目以降は中止 ↓ ↓ ↓ ↓
3										

Rp	薬品名	薬価最小組み合わせ	備考
1	ダラツムマブ・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ		臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、本剤15mlを約3~5分かけて投与する。 他の部位への投与はデータが得られていないため行わないこと。 同一部位への反復注射は行わないこと。 皮膚の発赤、挫傷、圧痛、硬結又は瘢痕がある部位には注射しないこと。 患者が痛みを感じた場合は、注射速度を減速又は注射を中断する。減速しても痛みが軽減しない場合は、残りを左右逆側の腹部に投与することができる。 本剤投与中は、同一部位に他剤を皮下投与しないこと。
2	ボルテゾミブ		皮下注射の場合、1vを生食1.2mlで溶解する。静注の場合、1vを生食3mlで溶解する。 皮下注: 投与部位は左右の大腿部、腹部に交互に投与するなど注射部位を替えて行う

併用内服薬	用量(1日量)	用法	投与期間
ラモセトロン	0.1mg	分1夕食後	day1、8、15、22 (7クール目以降 中止)
シクロホスファミド	300mg/m ² (最大500mg/body)		
デキサメタゾン(デカドロン) (7クール目以降はday1のみ)	20mg	分1朝食後※	day1、2、8、9、 15、16、22、23
アセトアミノフェン	1000mg	ダラツムマブ 投与1~3時間前	ダラツムマブ 投与日
ジフェンヒドラミン	30mg		
モンテルカスト	10mg	前日眠前と 当日朝	1クール目 day1のみ※※

※ダラツムマブ投与日のデキサメタゾンはダラツムマブ投与の1~3時間前に投与すること。

※※1クール目day1のみ前日眠前、当日朝にモンテルカスト10mgを内服。呼吸器疾患のある場合は以降も継続。

デキサメタゾンの用量・投与期間は、患者の状態で変更する場合があります。

ボルテゾミブは静注での施行の場合あり。

備考	
----	--